

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000041		
法人名	株式会社コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホームアクア		
所在地	山口県光市木園1丁目4番5号		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町受理日	令和 元年 6月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク	
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内	
訪問調査日	平成31年3月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは街の中心地にあり、医療、買い物と利便性の良い場所にあります。さらに、自然に恵まれホームの裏には島田川があり河川には、野鳥や魚がおり四季折々な風景を目にする事が出来、散歩が楽しめます。また、開設当初からの職員が数多く在籍し、利用者様やご家族様とも良好な信頼関係を構築しています。さらに、地域の行事である盆踊りや餅つき大会に参加をしたり、当ホームの避難訓練に地域の皆さんが協力して下さったり、自治会主催の防災訓練に当ホームも参加したりと良い関係が出来ています。ホーム内ではご家族様と入居者様が一緒に参加できる行事もありみなさんで楽しむことが出来ます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、計画作成担当者、担当職員が中心となり、利用者の日々の生活記録表を基にケアプランの実施状況や本人の思いを把握され、全職員で話し合って課題や問題点を発見され、利用者のよりよい暮らしの実現を目指した本人本位の支援につなげておられます。防災訓練時には、地元の消防団や地域住民が多数参加され、見守り活動を含めた避難訓練を実施されています。地域では自主防災組織が設置されており、避難訓練や土囊づくりに事業所も参加され、地域ぐるみの協力体制が築かれています。早い時期から年間の研修計画を把握され、職員の希望をそって研修の機会を確保されたり、ヒヤリ・ハット報告書を調理担当職員を含めた全職員に回覧され、情報を共有して事故の発生防止に努められるなど、評価を活かした取り組みを進めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仕事に入る前に理念を必ず確認し、ご家族様や地域向けのホーム便りにも理念を掲載している。また、自分達が意識を持ち、理念の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、玄関、事務所、廊下、食堂など目につくところに掲示し、職員は業務開始前に確認している。申し送りや毎月のミーティングで唱和したり、家族向けと地域向けの事業所便りにも理念を掲載して周知を図るなど、日頃から理念を意識して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に積極的に参加し、入居者・職員も地域の住人であるという意識を持つようにしている。また、施設内の避難訓練などの行事にも、地域の皆様や消防団の方に参加していただいている。	自治会に加入し、総会や自治会館の掃除、河川の草取り、自主防災会の避難訓練や土嚢づくりなどに職員が参加している。2ヵ月ごとに地域向けの事業所便りを近くの小、中学校や関係機関に配布している。利用者は地域の盆踊りやもちつき、近隣の福祉施設のバザーに参加して地域の人と交流している。中学生の職場体験やボランティア(オカリナ、家族のギター演奏、日本舞踊、傾聴など)の来訪があり、交流している。施設前の川べりを散歩中に近所の人と挨拶を交わしたり、地域の人や家族からひな人形や野菜、みかん、お菓子の差入れがある。地元の中学校の認知症声かけ訓練に職員が協力して啓発活動にも努めており、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える家族の会主導で行われた、地域中学校での認知症の声かけ訓練に参加した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員ミーティングの際にサービス評価項目ガイド集に基づいて勉強会を行い、それぞれの項目について積極的に意見交換を行った。	管理者は、ミーティングで評価の意義について職員に説明している。自己評価は、9月～2月まで毎月のミーティング時にガイド集を基に各項目ごとに話し合い、職員からの意見を管理者がまとめ、再度全職員で確認している。評価を通して調理担当職員を含めた全職員がヒヤリ・ハット報告を基に対処策を考え、事故防止につなげている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、運営推進会議メンバーの拡大、職員の福利厚生の実、職員の研修の機会の確保など、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域担当の民生委員の方や地域住民の協力者の方にも参加して頂き、幅広い意見をいただくようになった。	民生委員と地域住民が新たなメンバーとして参加し、会議は2ヶ月ごとに開催している。事業所の活動や利用者の状況、事故報告、研修報告、外部評価結果の報告について説明し、意見交換を行っている。家族には議事録を送付し、職員にも回覧している。会議では身体拘束適正化のための指針やスピーチロックについての説明、災害時の避難経路の見直しや避難場所について話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方にも参加して頂き、意見交換を行っている。また困難な事例についても相談し、意見を頂くなど協力関係を構築している。	市担当者とは、運営推進会議時に意見交換したり、直接出向いて相談して助言を得たり、地域ケア会議、グループホーム協議会に参加して情報交換を行うなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、毎月入居者情報を連絡し、情報交換しているなど、日頃から連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員全員が理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体等拘束適正化委員会を運営推進会議に合わせて開催している。	職員は内部研修で学び、身体拘束しないケアに努めている。スピーチロックについては、気づいた時に管理者が指導や助言し、職員同士が注意し合える関係づくりをしている。玄関は施錠せず、利用者の動向を見守り、外に出たい利用者とは職員が一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修に参加し、施設でも勉強会を行なうことによって職員間の理解を深め、虐待の未然防止に取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、定期的に勉強会を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書などについての説明を行ない、契約内容をご理解いただいたうえで、疑問点があれば対応できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時にご家族様に説明を行なっている。運営推進会議にも出席して頂き、意見や要望を伺い、その都度対応を行っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族からの意見や要望は、面会時、利用料支払時、家族会や運営推進会議、行事参加時、電話などで聞いている。事業所便りの他、担当職員が利用者の様子を写真入りで報告したり、面会時にはお茶を出して部屋でゆっくりと過ごしてもらい、日頃の様子を伝えるなどして、意見や要望を言いやすい関係づくりをしている。ケアに対する意見や要望にはその都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望に応じて、親睦会の会費を福利厚生から出していただき、夏冬の年二回行っている。	管理者は、月1回のミーティングや朝夕の申し送り時に職員からの意見や要望を聞いている他、日常業務の中でも職員からの意見を聞いて、代表者に報告している。職員からの意見を目標達成計画に掲げ、職員の福利厚生として年2回の親睦会の開催へとつなげている他、福祉用具や台所用品の購入など職員の意見や要望を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は常に施設環境を把握し、迅速な対応をしている。また職員の健康診断を定期的に行い、職員の健康づくりにつとめている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の研修計画をたて、職員が希望する研修に参加できるよう取り組んでいる。参加後は研修報告を行ない、フィードバックしている。	外部研修は、年度末に翌年の研修情報を基に年間計画をたて、職員の希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講者はミーティングで復命報告をしている。内部研修は、毎月テーマを決めて（防災計画、身体拘束、認知症の理解、高齢者のリスクマネジメント、虐待予防、感染症予防など）、管理者や職員が講師となって実施している。外部講師を招いて救急救命講習を開催しており、事業所には、上級救急救命資格取得者が4名在籍している。事業所はAED設置救急ステーションの認可を受けている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加して意見交換を行い、交流を図っている。入居者の空き状況をGH間で共有している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを利用してアセスメントを行い、本人にとってより良い支援が行えるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先立ってご家族様の思いを受け止めて、職員の間で情報を共有し、安心して頂けるよう心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況を把握し、問題になる事柄に優先順位をつけ、必要に応じて変更しながら、ひとつひとつ問題を解決していけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の出来る事を活かしながら、それに対する感謝の思いを示すことによってやりがいを感じていただき、ともに生活する関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様に利用者様の状態をお知らせするお便りを出している。また、ご家族様と外出された場合は、外での様子を聞かせていただいている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの知人の方が気軽に面会できる環境を作っている。ご家族様と墓参りや外食に行かれたり、電話で話をしたり年賀状が届いたりなど、関係を継続できている。	家族の面会や兄弟、親戚の人、友人、近所の人、趣味仲間(刺繍)などの来訪がある他、年賀状や暑中見舞いの受け取り、電話の取り次ぎを支援している。家族の協力を得て、法事や墓参り、自宅への外泊や一時帰宅、外食、買い物などに出かけて、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士がお互いの部屋で過ごして楽しい時間を共有したり、利用者様同士で助け合いや出来ないことへのフォローを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様に面会に行ったり、ご家族様に近況報告を行なったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者様の様子などを連絡ノートや経過記録に記録し、全職員で共有して思いや意向の把握に努めている。ミーティングや申し送りの場で職員同士の意見交換を行い、その方にあったケアプランを作成している。	入居時の基本情報やセンター方式シートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や様子を連絡ノートや経過記録に記入し、全職員で共有して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。経過記録はケアプラン実施状況や特記事項(次につながる思いや意向)を色分けして、利用者の状況がわかりやすいように工夫している。把握が困難な場合は、家族からの聞き取りや職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や親戚の方から話を伺ったり、利用者様の様子を観察して情報を得ることにより、本人にあったサービス提供を行い、その人らしい暮らし方や力が発揮できるよう支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護記録を記入し、それを常に確認することにより、小さな変化を見逃さないよう心掛けている。勤務に入る前には必ず申し送りを行い、特変があれば詳しく説明する事で状態が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一回、家族を交えた担当者会議を開催し、月一回のカンファレンスで課題やケアの方法について職員で話し合いを行っている。	管理者、計画作成担当者、担当職員を中心に、毎月カンファレンスを行い、利用者の思い、家族の意向、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとに家族も交えて担当者会議を開催し、モニタリングと計画の見直しを行っている。状態が変化した場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表や介護記録を記入する事によって情報の共有化を図るとともに、問題点や気づきがあれば必ず記録を残すようにしている。個別のファイルを作成し、病歴や服薬状況などを把握してリスクのチェックを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事やイベントがある時には出勤する職員を増やして対応し、ご家族様にも参加していただいて、安全に楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の避難訓練の後で、参加していただいた地域の方と懇親会を行い、意見交換をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり、ご本人やご家族様にかかりつけ医の意向を確認している。夜間等の緊急時は医療機関と連携し、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医としている。現在は、全員が協力医療機関にかかりつけ医としており、受診は事業所が支援している。受診時は、連絡ノートを活用して情報提供しており、結果は看護師に報告し、必要時は家族に電話で連絡している。夜間や緊急時は、協力医療機関に連絡し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の医療機関による看護師の訪問や相談、当施設の看護師による健康指導など、利用者様やご家族様が安心できるサービスの提供を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成・提供だけでなく、お見舞い等ケアの協力につとめ、入院中の状態を把握し、カンファレンスに同席してご家族様と情報の共有を行なったうえで、退院後のケアにむけて支援計画を立てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要になるまで、可能な限り本人様やご家族様の希望に沿った支援ができるよう、その都度意向の把握につとめ、重度化した場合は協力医療機関と連携できるよう支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に向けて事業所ができる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向をふまえた上でかかりつけ医、職員と相談し、医療機関や他施設への移設を含めて全員で方針を決めて共有し、支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハットや事故報告の事例をまとめて、事故につながらないよう申し送りやミーティングなどを利用して、全職員で情報を共有し、新たな事故に繋がらないよう発生防止につとめている。	ヒヤリハット、事故報告書は、当日の状況、原因、対策を発見者が記録し、管理者が気づきを記入して、申し送りで報告し、調理担当職員も含めて全職員に回覧している。毎月のミーティング時には再度職員間で検討し、再発防止に努めている。事故発生への対応については、毎年上級救命講習に参加した職員が、心肺蘇生、AEDの使用方法、止血法、気道確保、外傷の応急処置などの復命報告をしたり、外部講師による心肺蘇生法やAEDの使用方法の講習を受けている。	・訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災対策として、年一回は消防署、もう一回は地元の消防団の協力を得て、昼夜間を想定した避難・消火・通報・避難経路確認の訓練を、地域の方にも参加していただき実施している。地域の自主防災会の訓練にも参加した。	年1回は消防署の協力を得て昼想定、もう1回は地元消防団と地域住民(11名)の協力を得て、夜間を想定した通報、避難、消火訓練を実施している。地域住民には避難先での利用者の見守りをお願いしている。訓練後には消防署や参加者からの意見を取り入れ、部屋番号を数字に変更したり、避難場所の再検討をしている。地域には自主防災組織があり、職員は避難訓練や土嚢作りに参加するなど、地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権を尊重し、プライバシーを損なわないような声かけを行っている。また、個人の記録等も他者の目に触れないよう、取扱いに注意している。	利用者一人ひとりに合わせた声のトーンや口調、声かけに気をつけて、利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしてる。個人記録や排泄チェック表なども保管場所に留意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の身振りやしぐさなどを通して、本人が何をしたいかをくみ取るよう努力している。また、職員の間で利用者様の個々のシグナルについて共通した認識を持つよう気を付けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間や場所、入眠時間など、利用者様のペースに合わせてできるだけ本人の希望に沿えるよう支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着の更衣の際、自己決定出来ない方はスタッフと一緒に選び更衣して頂いている。また、整髪できない方には職員が手伝うなどしている。起床時にはメイクをしたり、入浴後には乳液をつけるなどして、自分らしい身だしなみができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に配膳をして頂き、個々に合わせた食事形態で提供している。また、年に一度はご家族様との外食の機会を設けたり、季節の行事に合わせた献立作りを行なうなどして、食べる行事を楽しめるよう心掛けている。	利用者の希望や好みを取り入れた献立を職員が立て、朝食は夜勤職員が、昼食、夕食はシルバー人材センターの調理担当職員6名が交替で手づくりしている。利用者は、配膳、下膳、テーブル拭き、食器拭きなどができることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食事をしている。利用者の状態に合わせてミキサー、キザミ、トロミなど形態を工夫して対応している。行事食（おせち、ひな祭り、花見寿司、敬老会、年越しそばなど）、年1回の家族と一緒にの外食、おやつづくり（フルーツヨーグルト、ホットケーキなど）、誕生会のケーキ、ドライブ帰りのソフトクリームなど、食事を楽しむことができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや飲水量を記録し、個々の食事を把握するよう努めている。嚥下不良の方には水分にとろみをつけ、刻み食やミキサー食、お粥を提供するなど工夫している。また、水分量が少ない方には本人が好む飲み物を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実践して、清潔が保てるようにしている。自分で出来ない方は、スタッフの介助により口腔ケアを行っている。義歯を装着している方は、義歯の洗浄も行なっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行ったり、失禁があった場合は羞恥心を与えないような声かけの工夫を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握している。誘導のタイミングは、利用者の表情や素振りなどのサインを見つけるなど工夫している。排泄時は声かけに配慮して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品を提供するなどして、なるべく自然に排泄できよう促している。また、処方された下剤を使用する場合は個々の状態に応じて調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望があった場合、可能な限り対応している。本人の健康状態に応じて、入浴が出来ない時は全身清拭などを行っている。また入浴剤を使用する、利用者様によっては入浴後に化粧水を使用するなどしている。	入浴は、日曜日以外の毎日、13時30分から15時30分の間可能で、週に3回程度は、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴を楽しめるように支援している。体調に応じてシャワー浴、部分浴、足浴、清拭などを行っている。入浴剤や柚子湯などを楽しんだり、入浴後にお気に入りの化粧水を使用する利用者もいる。入浴を嫌がる利用者にはタイミングをずらしたり、職員を変えて声かけするなど工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか入眠できない利用者様にはリラックスして入眠できるよう話相手をつとめたりするなど、個々の状況に合わせて対応を行っている。また、日中も利用者様の体調に応じ、休息を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に服薬ファイルを作成し、投薬の変更があった場合は必ずスタッフ間で内容を伝達するよう徹底している。服薬の際にはスタッフが付き添い、誤薬防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、ボール投げ、カラオケなど個々が楽しめるよう支援を行っている。花の好きな方は居室に花を飾り、水替えを行っている。また、配膳・洗濯干し・洗濯畳みなど、自分にできることをして日々の生活を楽しめるようにしている。	テレビ(歌番組、水戸黄門、ニュース、マラソンなど)、やDVDの視聴、雑誌、書き初め、カルタ、百人一首、クイズ、しりとり、ラジオ体操、口腔体操、ワッハッハ体操、足踏み体操、ボール投げ、風船バレー、家族のギター演奏や利用者のキーボード演奏に合わせて歌を歌う、カラオケ、地域行事(盆踊り、もちつきなど)、事業所の季節行事(初詣、豆まき、ひな祭り、お花見、七夕会、敬老会、芋掘り、クリスマスなど)、誕生会、家族との外食、中学生やボランティアとの交流、ウサギの飼育など楽しみごとの支援をしている。洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器拭き、配膳、下膳、花の水替え、ボタンつけなどの活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様や地域の方々に協力していただき、地域イベントに参加したり、外出の際、歩行困難な方には車椅子を使用して頂くなどして、個別の状況に合わせた対応を行っている。	周辺の散歩や地域行事への参加、初詣、花見(梅、桜、菜の花、あじさい、菖蒲、バラ、コスモス、紅葉など)、ドライブ(笠戸島、伊藤公園など)、祭りのパレード見学、芋掘り、家族との外食などに出かけている。利用者と職員と一緒に化粧品を買いに行くなどの個別支援を行っている。家族の協力を得て、お墓参りや法事、自宅への外泊、外出、外食などに出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理を行っているが、初詣の時に財布を持ってお賽銭を使っていたなどの機会を設けている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自ら電話ができるように支援している。年賀状や手紙のやり取りもできるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに医療施設用の空気清浄器を設置している。また、季節に応じて飾りつけを行ったり、車椅子の方が過ごしやすいようテーブルの配置を変えるなど工夫している。廊下やホールの壁には、行事の写真を飾ったりしている。	玄関には季節感あふれる花が飾っており、檻籠に入ったウサギが出迎えてくれる。リビングは大きな窓から自然の光が差し込んで明るく、テーブルやイス、テレビの前にはソファを配置し、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。対面式のキッチンからは、調理する人の姿が見え、音や匂いなど生活感を感じることができる。壁面には季節の飾りや献立表、習字の作品、行事の時の写真などを掲示している。温度や湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の各所に椅子やソファを設置し、利用者様の気分に合わせてくつろげる場所や談笑用のスペースを提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や写真、自分で描いた絵を貼っていただくなど、個人の好みに応じて過ごしやすい空間になるよう工夫している。	テーブルやイス、机、タンス、整理棚、三段ボックス、衣装掛け、ぬいぐるみ、キーボード、化粧品など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁には誕生日カード、孫からの手紙、家族の写真、カレンダーや自分の作品、職員が持参した花を飾っているなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にわかりやすいトイレなどの表示を工夫して、自立のための支援を行っている。また、利用者様の身体機能の状況に応じて、歩行器や車椅子、シルバーカーを使用していただいている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム アクア

作成日： 令和 元 年 5 月 28 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (15)	同じ入居者様が繰り返し同様のヒヤリハットや 事故報告が発生している。	同様の事故が繰り返し発生しないようにす る。	ミーティングで話し合った対応策を必ず守り、事 故につながらないよう職員全員で意識して行動 に移すようにする。	一年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。